

令和6年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書(中間評価)

重点目標 番号	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	判定	分析及び今後の課題
1 授業実践力の 向上	<p>【教科指導の校内研究】 教科別の指導や各教科等を合わせた指導において、教科の見方・考え方を意識した働きかけを工夫し、授業実践力の向上を目指す。</p> <p>・教務課</p>	<p>【努力指標】 児童生徒が教科の見方・考え方を働かせることができるような場面を設定することができる。</p>	<p>児童生徒が教科の見方・考え方を働かせることができるような場面設定ができたと考えられる教員の割合は</p> <p>A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満</p>	B以上で達成	B 78%	<p>児童生徒が教科の見方・考え方を働かせることができるような場面設定ができたと考えられる教員の割合は、78%であった。「声掛け」や「文科省著作教科書を活用する」等の働きかけの工夫をし、児童生徒が「思考する」「体験する」等の場面の設定を行ったことが多く挙げられた。また、できなかった理由として「教科の見方・考え方の理解が十分ではない」との意見が一部見られた。今後は、教科の見方・考え方について再度周知し、事例を紹介しながら、教員一人一人の理解や意識が高まるよう取り組みを進めていきたい。</p>
	<p>【GIGA校内研修】 タブレット端末等のICT機器を授業の充実のためのツールとして活用できるように、教員にアンケート等を実施し、要望や習熟度等に応じた研修を実施する。</p> <p>・情報課</p>	<p>【成果指標】 ICT活用研修会は有益だと感じられるような研修会を実施し、授業等に生かすことができる。</p>	<p>実施した研修会が有益であり、授業等に活かすことができると感じた教員の割合は</p> <p>A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満</p>	B以上で達成	A 93%	<p>実施された研修会が「有益」または「概ね有益」であり、授業等に活かすことができると感じた教員の割合は、93%であった。「学習に関するアプリの操作や、効果的に活用するための準備等を知ることができた」「学習を効率よく進めたり、理解を促す場面で活かしたりすることができた」「ロイロノートの同じフォーマットを使うことで、まとめや発表に活かすことができた」等の意見があり、研修会で一定の成果が上げられた。「既に身に付いている内容の研修が多いため」「知らなかったICTの使い方を知るときもあるが、自分の操作力でなんとなくかなっている」等の意見をもつ習熟度が高い教員に対しての研修の在り方が課題として挙げられる。今後、習熟度に応じた研修が実施できるように計画する。</p>
2 安心・安全な 学校運営	<p>【災害時体制の整備】 危機管理マニュアルを基に、教員が非常災害時の自分の役割を理解しながら行動できるようにする。学校安全課は訓練時の意見を参考にし、危機管理マニュアルの内容を随時アップデートできるようにする。</p> <p>・学校安全課</p>	<p>【成果指標】 避難訓練や気象災害時に、危機管理マニュアルを基に、自分の役割を理解し、学校や児童生徒の安全を守るための行動を適切にとることができる。</p>	<p>避難訓練や気象災害時に、危機管理マニュアルを基に、学校や児童生徒の安全を守るための行動を適切にとることができると考えられる教員の割合は</p> <p>A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満</p>	B以上で達成	A 94%	<p>避難訓練や気象災害時に危機管理マニュアル（訓練実施要項含む）を基に、学校や児童生徒の安全を守る行動を適切に取ることができたと感じた教員の割合は94%であった。昨年度危機管理マニュアルや各災害マニュアルの大幅な見直しを行い、危機管理マニュアルを早期に全教員に共有してきた。「災害時を想定して避難経路を確認し、生徒が落ち着いて行動できるような声掛けをすることができた」等の回答があり、教員個々の意識の高まりを感じられた。危機管理マニュアルの見直しや早期の共有によって、各教員の役割が明確となり、行動に移しやすくなったことで、一定の成果があった。県内でも災害が続いていることから、今後より現実的で実用的なマニュアルになるよう修正を重ね、職員、児童生徒の意識向上につながるよう進めていく。</p>
	<p>【災害時の保健管理】 非常災害の発生に備え、以下のように保健管理体制を整える。</p> <p>・災害時用預かり薬に関する校内体制の構築 ・食物アレルギー対応備蓄食の備蓄管理 ・災害発生後の心のケア等に関する健康教育</p> <p>・保健体育課 ・生徒課</p>	<p>【満足度指標】 学校の災害発生時の保健管理体制に満足している。 (保護者アンケート)</p>	<p>災害発生時の保健管理体制に満足していると答えた保護者の割合は</p> <p>A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満</p>	B以上で達成	A 95%	<p>保護者アンケートの結果、災害発生時の保健管理体制に「満足している」、「概ね満足している」と感じる保護者の割合は小学部97.4%、中学部91.4%、高等部95.0%で、全体では、約95%であった。非常食カレーの摂食状況の把握と薬の預かりを行ったことで、非常時の体制に安心している等の意見が多く見られた。一方で、管理体制がよくわからない等の意見も寄せられている。今後は、薬を提出していない保護者への声掛けを行い、非常時の管理体制についての状況などを保健だよりなどで知らせていく。</p>
		<p>【努力指標】 災害発生後の心のケア等を理解し、支援をしている。</p>	<p>災害発生後の心のケア等を理解し、支援できていると考える教員の割合は</p> <p>A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満</p>	B以上で達成	A 100%	<p>4月と8月に行った研修後の教員のアンケートでは、研修内容を十分理解できていた教員の割合は100%だった。児童生徒の小さな変化を見逃さない姿勢と、児童生徒に寄り添いながら安心できる環境づくりを行うことの大切さを再確認できたとの意見が寄せられている。一方で、もし自分の身に起きた時に、不安の中でも命を守るために、冷静に対応する気持ちを確保することの大切さも話し合われた。今後は震災が児童生徒に及ぼした影響を考慮し、学んだことを活かして、実際に取り組むことが課題である。</p>

3 教育支援体制 の充実と指導 力・専門性の 向上	<p>【教育支援体制の充実】 進路や卒業後の生活に関する ことについて、保護者や教職 員が理解を深める。外部機関 と連携し、講師を招聘するな どして研修会を実施する。</p> <p>・進路支援課</p>	<p>【満足度指標】 進路に関する研修内容について 概ね理解できた、あるいは満足 している。 (保護者アンケート)</p>	<p>進路に関する研修の内容がわか り、満足していると答えた保護 者の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満</p>	B以上 で達成	A 100%	<p>P T A研修会の内容に「満足している」と回答した保護者の割合は80%、「概ね満足 している」と回答した保護者の割合は20%と参加者全員が満足している結果となっ た。また、進路セミナーの内容に「満足している」と回答した保護者の割合は54%、 「概ね満足している」と回答した保護者の割合は46%と参加者全員が満足している 結果となった。課題としては、参加者数の少なさが顕著に見られた。夏休み期間とい うこともあり、参加できなかった理由として「日程があわなかった」が多く寄せられ た。今後は保護者がより参加できるように時期の見直しや設定が必要になってくる。</p>
		<p>【努力指標】 進路に関する研修内容について 概ね理解できた。</p>	<p>進路に関する研修の内容が理解 できたと答えた教員の割合は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満</p>	B以上 で達成	A 95%	<p>P T A研修会の内容が「理解できた」と回答した教員の割合は54%、「概ね理解でき た」と回答した教員の割合は46%と、参加者全員が理解できたと回答した。進路セ ミナーの内容が「理解できた」と回答した教員の割合が38%、「概ね理解できた」と回 答した教員の割合が55%であり、参加者の93%が理解できたという結果となった。一 方で資料の掲示方法について改善したらよい等の意見もあったため、より参加者の理 解に繋がるような掲示の工夫や環境設定等を工夫していきたい。</p>
	<p>【指導力・専門性の向上】 石川県教員育成指標を踏ま え、自らが伸ばしたいと考 える資質能力や自らが身に付 けたいと考える力を高めるこ とを目指して主体的に受講す る。</p> <p>・研修研究課</p>	<p>【努力指標】 自ら伸ばしたいと考える資質能 力等について確認・整理し、目 標を立てて研修を受講する。</p>	<p>自ら伸ばしたいと考える資質の 向上を目指して、校内外の研修 を2回以上受講した教員の割合 は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満</p>	B以上 で達成	A 95%	<p>自ら伸ばしたいと考える資質の向上を目指して、校内外の研修を受講した回数が3回 以上の教員の割合は83%、2回受講した教員の割合は12%であり、多くの教員が主 体的に研修を受講した。今年度は、大学教授や指導主事を招聘して校内研修を実施 し、ニーズが高い研修を校内で受講できる体制をとったことが成果につながったと考 えられる。一方、時短勤務の教員からは受講できなかったという回答があげられてお り、今後は校内で実施した研修を事後に動画視聴できるようにしたりオンラインで参 加できるようにしたりするなど、受講体制を整える取り組みも検討していきたい。</p>
4 業務の効率 化・平準化の 推進	<p>【業務内容の見直しによる業 務の改善】 自らメリハリのある働き方 を目指すとともに、部や課での 役割分担や業務内容について 効率化できるものがあれば見 直し、一部の職員に負担がか からないように業務の平準化 を図る。</p> <p>・管理職</p>	<p>【努力指標】 業務内容の精選やICT活用ま たは業務分担の見直しにより、 業務の平準化を進めている。</p>	<p>業務内容や方法または業務分担 の見直しを行い、業務の平準化 が図られたと感じる教員の割合 は A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満</p>	B以上 で達成	D 54%	<p>教員の業務について、自らメリハリのある働き方を目指すとともに、部や課での役割分担や業 務内容について効率化できるものがあれば見直し、一部の教員に負担がかからないように業 務の平準化を目指している。業務の効率化や平準化について各課課長・副課長・学年主任・ 部主事等にアンケートをとった結果、「業務の効率化や見直しを行った」教員の割合は94% でした。具体的な取り組みとしては、会議時間の短縮や、抱えている業務の仕事量が均等 になるように振り分ける、業務を精選し不要な業務の削減に取り組んだ等の意見があつた。ま た、業務分担の見直し等を行い、業務の平準化が図られたと感じる教員の割合は54%だつ た。今後も引き続き、業務の振り分けの推進を意識し、積極的に課内や学年内で声を掛け合 い、業務の効率化・平準化を進めていく。</p>